

旧本家住宅だより

Vol. 1（創刊号） 2022.1



旧本家住宅の解体工事が始まりました

令和2年3月に東京都指定有形文化財に指定された「旧本家住宅」の解体工事が始まりました。江戸時代より約300年もの間、谷保の地に建っているため、歪み・傷みが酷い状態でした。後世に残していくために、一度解体し、復元工事を実施します。

そして「旧本家住宅だより」では、工事の進捗状況や復元工事に向けた動きなどを発信していきます。また、貴重なものが多くある本家旧蔵資料も紹介する予定です。この創刊号では、旧本家住宅の基本情報をお伝えします。

? 旧本家住宅とは

旧本家住宅とは、江戸時代より約300年間にわたり国立市谷保に建つ由緒ある建造物です。

主屋（しゅおく）は、享保16（1731）年の祈禱札が見つかったことから、建てられたのはそれ以前と考えられています。主屋は3本の大黒柱などの江戸時代中期にみられる特徴を残し、喰違い六間取り（くいちがいむつまどり）という平面形を持つ建物としては、都内最古級のもので、さらには家格の変化や時代に応じて、近代に至るまで増改築を繰り返しているため、

民家建築の変遷を示すものとして、歴史的・学術的に価値があると評価されています。以上の理由から令和2（2020）年3月に東京都指定有形文化財（建造物）に指定されました。



表門



土間(主屋内)

また、主屋と同じく表門も指定されました。甲州街道沿いに建っている表門は、間口2.5mと大型の薬医門で、江戸時代末期に建てられたものと考えられています。表門は乗馬したままでも通行できる高さがあることから「おうまもん」と呼ばれていたこともあります。

元々は敷地の中央付近の街道沿いに建っていましたが、昭和7（1932）年に甲州街道の拡幅工事の影響で現在の位置に移されました。戦後になると、茅葺から現在の銅板葺と部分的な改変はされていますが、現在も格式高い屋敷構えを今に伝えています。

旧本家住宅内には江戸時代から現代に至るまでの資料も多く残されており、建物と同様に多摩地域の歴史や文化を知る上で重要な存在です。

解体前の旧本田家住宅の様子



ショサイ（主屋内）

昭和 34（1959）年に改築されたショサイ。江戸時代から継承されている本田家の方々の文化人としての側面を象徴するような一室。写真上部中央の扁額は江戸時代に書家として活躍した市河米庵から贈られたものです。

縁側から見た東側の庭

旧本田家住宅の庭、特に東側はほとんど植生が変わることなく、樹齢 100 年を超える樹木もあります。建物だけではなく庭の景観も保たれてきました。江戸時代には菊見の会などを開くなど、代々本田家の方々は園芸や作庭にも関心を持たれていました。



【 解体・復元事業のスケジュール 】 スケジュールは変更になる可能性があります。

年度	令和 2 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
基本設計	■					
実施設計		■	■	■		
解体工事 調査		■	■	■		
復元工事			今ここ！	■	■	■

解体工事に伴い、詳細な調査を行うので、何か新たな発見があるかもしれません。工事の進捗だけでなく、復元工事後の新たな旧本田家住宅を楽しみにしていただけるような情報を発信していきます。

旧本田家住宅へのアクセス

- JR 南武線「谷保」駅から徒歩 6 分
- JR 中央線「国立」駅からバス 10 分
（「聖蹟桜ヶ丘駅」行き）
- 「国立府中インター入口」下車徒歩 1 分

現在工事のため、敷地内に入ることはできません。

表門は外側から見るができます。



発行：国立市教育委員会 生涯学習課 社会教育・文化財担当（市役所 3 階 45 番窓口）
042-576-2111（内線：323）メール: sec_shogaigakushu@city.kunitachi.lg.jp